

第2回 北区新庁舎新築基本設計専門家会議 概要

- 日時 令和6年12月2日(月) 18:00～20:00
- 場所 北区役所第一庁舎3階会議室(Web会議併用)
- 次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 新庁舎整備の現状報告と今後のスケジュールについて
 - (2) 基本設計のコンセプトおよび低層部のにぎわい機能について
 - 3 閉会

●会議概要

1 開会

2 議事

(1) 新庁舎整備の現状報告と今後のスケジュールについて

○事務局より現在の進捗状況を説明

- ・執務レイアウトについてベースとなる案を作成している。事前に仲委員にご相談させて頂き、もつとできるのではとエールを頂いている。職員に丁寧に説明をして機運を醸成し、仲委員にアドバイスを頂きながら設計者と共にバージョンアップをしていきたい。
- ・低層部のにぎわい検討については、設計者の考え方と、にぎわいに関する委託業者の調査結果等を踏まえ、有識者の専門的な見解を伺いながら検討を進めていきたいと考えている。12/18には第4回のにぎわい有識者会議を実施予定。

(2) 基本設計のコンセプトおよび低層部のにぎわい機能について

○設計者より基本設計の6つのコンセプト、低層部のにぎわい機能について説明。

○設計者より執務空間の検討状況を説明。今後は区と相談しながら、現庁舎で新しい働き方にトライしていくことも考えている。

- ・明治通りの騒音を踏まえると、半外部的空間に対して配慮が必要と考えた。
 - 「半外部空間」とご指摘頂いた部分は、プロポ時より内部空間として計画している。スロープは1/20をベースに検討を進めている。
 - バリアフリーについては、SANNAのローザンヌのような緩やかな斜面があると良いと思った。
 - すべて内部空間であり、その中に室(部屋)をとところどころに配置する計画となっている。エスカレーターについてはエレベーターの交通計算上、3階程度まで設置することを検討している。窓口階のあり方検討により、もう少し上層まで設置する可能性はある。

- ・1階部分はどのようなになっているか。

→路面店のようにまちに向かって開く設えとしている。

- ・プロポーザルの時は、基準階の外形がそのまま地面に下りてきて、低層部ではそれがそのまま外は緑という印象があった。低層階が太って、建物外部のランドスケープと区別がつかなくなっているというのは何故か。設計において、曲線という考え方はどこから出てきているか。おそらくコストの面で曲面ガラスの採用は難しい中で、多角化したときに、ランドスケープは曲線ができるが、そ

ここにどのように関係性を作っていくのか。

→曲線は飛鳥山周辺の地形の崖線を引用している。今後、高層部を細くして、全体として山に見えるようにしたいと考えている。

→低層部は緑をメインとし、一階はシンプルに構成される方が良いのではないかと。もっとランドスケープと緑が一体的になるべき。

→他社のプロポ案で低層部を広げていた案があった。それと比較して本提案はシンプルな明快さや伸びやかさがあった。崖線を引用しているということであれば、コストを意識して、ランドスケープは曲線とし、建築は直線的につくるということもある。

→2階まで人を上げることが重要である。M2 階があるのも重要である。その連続的な空間構成に期待している。

- ・オフィスに関しては、小堀氏は働いている方々を本気にするのが得意なので、実験を繰り返しながら進めて欲しい。区へのお願いとしては職員や家具メーカーを巻き込んでワークショップを行い、機運を醸成して欲しいと思う。

→今後は、設計者と共に現庁舎で新しい働き方にトライしていくことも考えている

- ・グループアドレスでは拘束感が生まれて、働く場所を選ぶことに制約が生まれる。森トラストの提案している、ベース（全員分の席は用意しない）をつくって、用事があるときはそこに行くという、ホームアドレス方式を検討してみてはどうか。

- ・ジオガーデンの参考でシンガポールの事例紹介があった。外で快適に過ごせる時期が少なくなっている東京では外部/半屋外の温熱環境について、うまくデザインされると良い。

→空調のカスケード利用などを活用する等、設備設計者も含め、今後検討していきたい。

- ・周辺図を南北回転させると、下部の浸水エリアから上部の計画地、飛鳥山へと、災害時の生命の軸についても新たに認識されることもあるのではないかと。

3 閉会